

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670103656号
法人名	有限会社 オフィスセントラル
事業所名	グループホーム あおば
所在地	鹿児島県鹿児島市東坂元2丁目31番3号 (電話) 099-248-5511
自己評価作成日	平成25年 6月 1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年8月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、おひとり一人に合ったケアを考え、少人数性のグループホームだからこそ出来る細やかな対応を実践していきたいと思っております。少しでも多くの時間を自分らしく過ごして頂く為に、認知症の進行を遅らせ、緩和出来ればと考え、認知症専門病院の医師による適切なアドバイスを頂くために、数年に渡り、利用者の通院介助を行って参りました。私共が頑張る通院介助を繰り返す熱意に賛同して下さい、今では、月1回、往診して頂けるようになりました。認知症の新しい治療方法や新薬の情報なども逸早く教えて頂ける環境をつくる事が出来ました。本人の意思を大事にし、ご自由に過ごして頂きながらも、安全と安心に細心の注意を図りながらケアさせて頂いております。また、協力病院である肥後クリニックへ週4～5回ほどリハビリに出かけられますが、天文館の中心を通るコースになっていますので、商店街の季節の飾り付けや歩行者の服装など、季節感を感じ、刺激となり、利用者にとっては、楽しいドライブの時間となっております。年に2回家族交流会を開催し、和やかな雰囲気の中で、歌やゲームをしたり、お食事の後、お餅つきをしたりして楽しんで頂いております。石臼を使用するお餅つきは、好評を頂いております。おはら祭りの前夜祭には、関連の全グループホーム、施設の職員が、親睦を兼ねて参加しており、利用者には前日に職員がそれぞれの施設を回って、お披露目をしております。夏祭りや新年会は、グループホーム合同で行い、踊りを見て頂いたり、歌を歌って頂いたり、かき氷や綿菓子、ぜんざいを味わって頂いたりしております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは雄大な桜島や錦江湾を背景にして眺望の良い住宅街に位置し、近隣に大型スーパーがある。建物横スペースにはプランタを活用した家庭菜園を作り野菜の成長を楽しみにしており、食卓に旬の野菜を利用した料理が顔を覗かせ利用者の食の自立に一役買っている。
- ・町内会に加入しており、地域行事にも参加している。小学生のサマーボランティア・高校生の職場体験の受け入れ、散歩や買い物時の地域の方々との挨拶や会話を通じて日常的に地域の方との交流が図られている。
- ・運営推進会議は定例化され、家族だけの会議も開催して話し合いを行いながら介護の質の向上につなげている。家族交流会には毎回多くの家族が参加し、意見交換も活発になされている。また、職員の資格取得を推進し育成やスキルアップのため、勉強会や外部の研修会への参加促進にも力を入れている。
- ・「いつまでも青葉のように若々しく…」といったホームの思いや地域の中で安心と幸せの施設を目指すといった施設理念を掲げ、経験と知識を持ったスタッフが介護を必要とする利用者に家族と同じように共に生活する者として利用者や家族との信頼関係を深めつつ、地域住民の方々に温かく見守っていただきながら心豊かに日々の生活を送っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、安心して暮らせるような理念を作り、ミーティングで、理念の意味を掘り下げて、同じ目標を持って、介護の在り方を話し合っている。	いつまでも青葉のように若々しく利用者の個性を生かし地域の安心と幸せの施設を目指すといったホームの理念を掲げ、過去には理念の見直しもおこなっている。ホームの理念を玄関、リビングに掲示し、職員のネーム裏にも明記して日々共有しケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、公園清掃や町内美化活動などに出来るだけ参加している。隣のスーパーへ、利用者と買い物に出かけて挨拶を交わしたり、話をしたりしている。	利用者が地域住民などと自然体で関係性が維持できるよう隣家のスーパーへ買い物に出かけ会話したり散歩するなどして交流することが日課になっている。また、町内会に加入して美化活動、防災活動へ参加し隣家住民とも日常的に交流があり、サマーボランティア、高校の福祉（介護）コースの実習生を定期的に受け入れ指導している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	家族向けに作った認知症の理解の資料を差し上げたり、利用者と一緒に花や野菜を育てているところを見ていただくことで、どのような施設であるのか理解していただく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話し合いをしたり、その場で取り上げられた検討事項についてその経過を報告し、サービス向上の手がかりにしている。	民生委員、地域包括支援センター、家族代表、職員で構成される会議は定例化されているが、年2回は家族会のみでの会議も開催されている。内部アンケートを実施しており、報告や情報交換だけでなくホームケアのサービス向上に向け会議メンバーから率直に意見をもらい家族交流会で報告し共通理解を図っている。	

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れにより、入居者様の希望や意見を参考にしてサービスの質の向上に役立っている。	地域包括担当職員との連携協力関係があり、認定更新の機会などに市町村担当者とも連携を深めている。また、介護相談員を受け入れ利用者の暮らしぶりや利用者の希望に沿ったケア提供状況を具体的に伝え情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの中で、繰り返し研修を行い、ケアを振り返り、気づいていない身体拘束はなかったか点検して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族の方からは、玄関の解放は、心配であるとの声があるが、理解していただき、利用者の行動パターンを把握して、外出したいときに一緒に出かけるようにしている。	玄関を開放しているため、家族から心配の声も寄せられてはいるが、中扉との二重扉になっているため利用者の行動を抑制することなく常に寄り添い、本人が外出を希望すれば職員が付き添い、外出支援をおこなっている。居間には、くつろげるソファやいつでも好きな時に横になれるベットが設置しており、本人本位に過ごしてもらえ配慮がある。高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会やミーティングを実施し、職員の意識向上や共通認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、高齢者虐待防止関連法について話し、理解を促している。例えば、自分の親だったら、どのようにしてほしいかを考えながらケアをするなど具体的なことを提示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに、このような制度があることを職員の説明している。対応が必要なケースには、管理者が中心となって対応している。		

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書により契約を結ぶ際、利用料金や入居・退去の基準の詳しい説明を行い、同意を得るようにしている。利用者の状態変化により退去に至る場合は、ご家族やご本人と対応方針を相談し納得していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会や運営推進会議等において常に問いかけたり、家族が、訪問された時、何でも話せる雰囲気作りや声かけを心掛けている。出された意見や要望は、ミーティングで話し合っている。	家族とは、意見を出しやすい関係作りに努めており家族交流会、運営推進会議などにおいて提案された意見や要望などについてはミーティングで話し合っている。遠方の方には電話で意見を拝聴し集約し、内部アンケートを実施して利用者、家族に報告しサービスに反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回定例会「ミーティング」を開き、職員全員の意見や提案を聞く機会や話し合いの機会を設けている。事あるごとに問いかけをしたり、意見を求めたりしている。申し送りノートにも、意見を書いてもらっている。	定例会には、園長、施設長も参加し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員だけの会議も時々開催され、月1回管理者会議や法人全体の会議で職員の勤務体制、利用者の受け入れ、職員交代など事業所運営や管理上重要な情報の共有や意見を出し運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、勤務状況を把握し、貢献年数により、表彰している。ミーティングにも積極的に参加して、意見を聞こうとされている。		

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護支援専門員協会・社協の主催する研修などを積極的に受講するとともに、月1回職員の勉強会を開いている。参加できなかった職員も、資料と報告書を閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連グループホームの管理者と事例の検討などを行う事で、質の向上に役立てている。包括支援センターの交流会や勉強会に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった時、本人に面会して話をお聞きしたり、入居されてからは、事あるごとに、心身の状態や思いを話していただけるような声かけや機会を作り、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談と見学に訪問されたとき、家族の苦労や不安などをゆっくり聴くようにしている。予約された後、時々近況をお聞きしたりする事で、信頼関係を作ることに繋がっている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、早急な対応が必要なのかどうか、本人と家族の思いや状況などを確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている。（他のグループホーム・デイサービス・ショートステイなど）		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と共に暮らす同士であり、人生の先輩であるという考えを共有しており、入居者の得意な分野（料理の仕方、行事の風習など）において学ぶことが多く、相談しながら物事をすすめるように心掛けている。		

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、入居者のご様子をお話ししたり、思っている事をお伝えすることで、家族と協力し合ってご本人を支えていける関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の半数は地域に暮らしていた方達なので、気軽に面会に来てくださる。また、2ヶ月に1回、もしくは、毎週外出されて、家に帰られる方もおられ、馴染みの場所や人に思いを巡らせられるように支援している。	地元地域に暮らすなじみの関係性が色濃く、家族も気軽に面会に来られる。毎週家族と外出される利用者や、2ヶ月に1回家族との外出を楽しみにされている利用者もいる。遠方の家族には、手紙や電話で近況をお知らせするなど関係性が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、毎日お一人おひとりに時間を作って声をかけ、話を聴いたり、食事の時間もそばで、多くの会話を持つようにしている。介助の必要な方には、元気な方のそばに座っていただき、手伝っていただく事で楽しく支え合って過ごせるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞いなどを差し上げることにより、近況を知らせて下さっている。時々、電話を掛けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ関わりを持つように心掛け本人が、どのように暮らしたいのか、どうすることが、最良なのかを家族や職員を交えて検討している。例えば、本人と一緒に暮らしたいと思われているが、暮らす事は無理なので、週1回ご家族と外出していただくことで、施設にいても、家族なのだ安心していただけるようにしている。	本人が日々どのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなど本人の視点に立ち本人の思いを汲み取り、ホームで生活していても家族との絆を大切にしている。帰宅願望などがある方には関わりの中で声かけ、把握に努め安心できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、自宅や施設や病院に訪問させていただき、本人や家族から聴き取りをさせていただいたり、アセスメント表にも書き込んでいただいている。入居後も、折りに触れて本人に問いかけ、どのような暮らしをされていたのか把握するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者お一人おひとりの生活リズムや心身状態を理解するように努め、出来ることや理解できることなどを把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に対して、思いや意見を聴くための話し合いの機会を持ったり、遠くてなかなか訪問することができない家族には、電話や手紙を利用して意見交換を行い、介護計画の作成に活かしている。また、定例会を利用して、職員との意見交換やモニタリングをしている。	本人や家族には日々の関わりの中で、思いや意見を介護計画に反映するようにしている。また、計画の見直しは職員全員でアセスメントを含め意見交換し、モニタリングしている。遠方で会うことができない方などは、電話や手紙を通じて意見交換を行っている。	

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が、毎日、利用者の状態変化や気付いたことをケース記録・業務日誌・申し送りノートに書き込み、勤務開始前に確認することで、情報の共有化を図り、職員間のケアの実践や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の送迎や付き添い・利用者の希望や生活状況から発生するニーズに柔軟に対応している。家族のために、希望により、食事を準備したりして、ゆっくと過ごしていただくための支援もしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんやボランティアの方が、訪問してくださったり、近くのケアハウスからのお誘いで、書道教室に参加させていただいたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を確認し、協力医療機関や以前からのかかりつけ医で継続して受診できるように支援している。他科受診の際も家族の希望する医療機関を利用することができる。家族同伴の受診だが、家族代行で職員ができることを説明し、同意を得ている。	協力病院へ週4～5回程リハビリ目的で外出し継続受診ができるよう支援している。また、月1回認知症サポート医による訪問診療により薬物療法や認知症の症状緩和などの相談や経過観察がそれぞれの情報の共有、連絡・連携によりおこなわれている。他科受診は、家族に同行をお願いしたり代行するなど支援している。	

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制になっているので、週1回以上の訪問看護と連絡ができています。血圧や体温の異常に気付いた時やいつもと違う心身の変化に気付いたら、すぐに電話連絡をして、指示や助言をいただくようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医の医療情報提供を依頼したり、介護情報の提供書を書き、安心して入院できるように手配したり、病院の相談員の方と納得がいくまで話し合うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、終末期の在り方を家族・医師・看護師・職員を交えて話し合いの場を何度も持ち、看取りをさせていただいている。それをきっかけに、家族交流会の中で取り上げ、それぞれの家族の気持ちをお聴きし、支援に繋げている。重度化された時に、話し合いを行うことに決まっている。	看取り指針を定め重度化した場合や終末期までの段階ごとにホームの対応方針や対応し得るケアについて、家族に丁寧に説明し同意を得ている。管理者は、事業所の対応力が変化することを常に意識し、力量を勘案して現状でどこまで支援できるか常々考え支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを基に、ミーティングの中で、繰り返し訓練をしている。		

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署とセキュリティ会社の方々の協力を経て、避難訓練（特に夜間帯での訓練）や避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を年2回行っている。関連ケアハウスやクリニック職員の協力や近隣の方たちの協力もお願いしている。運営推進会議においても、話し合っている。	利用者の部屋には、「非常用持ち出しリュック」がいつでも持ち出しができるよう壁に吊るされ家族の協力体制、理解が得られている様子を伺い知ることができる。消防署やセキュリティ会社、利用者、同法人関係施設関係者、近隣住民にも参加を促し、昼・夜間帯での訓練を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員にとって、利用者は、自分の家族だと思って接するように心掛けており、尊敬の気持ちを忘れないような声かけや対応をしている。さりげない介護や誘導ができるようにミーティングを利用して意識向上を図っている。	慣れ親しんだ関係性があっても利用者一人一人に応じた言葉かけをし、人格や誇りを損ねることがないように対応している。個人情報（プライバシー保護）について、内部研修で自己研鑽を重ね日常的に確認をおこなうなど事業所全体で取り組んでいる。排泄はさりげなく声かけや誘導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの体調・体力・理解力に合わせ、出来そうなことや興味のあることを探して、言葉かけを試みる。本人が希望されないときは、無理強いしないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活をしてもらいたいという家族の希望があり、基本的な一日の流れに従って過ごされているが、その日の体調や本人の希望により、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服を着られる際できるだけ見守りや支援をして、季節感のあるその人らしい身だしなみができるよう心掛けている。髪も、希望に合わせたカットやヘアカラーをしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを把握し、旬の食材やメニューを工夫することで、食事が楽しみなものになるようにしている。食材と一緒に見ていただき、献立を決めたり、調理や片付けに参加していただいたりしている。食事の時は、同じテーブルについて話しながら食事をしている。	嗜好調査を実施し、本人の好みや食事形態に合わせ、旬の食材を取り入れ献立を工夫するなどして食の楽しみが見出せるよう支援している。現在、ミキサー食の利用者が5名おりトロミをつけたスポーツ飲料や、黒砂糖入り麦茶を提供し水分補給を促している。誕生会は本人の好きな料理が食卓を飾る。献立作成や調理、下膳など利用者の協力を得ている。	

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事ができるように食事の内容や摂取量を記録している。職員は、同じテーブルについて食事をするので、利用者の状態を把握できている。飲み込みが悪い方は、おかゆや刻み食やとろみなどで対応し、水分量の少ない方には声かけし、支援している。定期的に栄養士のアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人に歯磨きの声かけを行い、職員がそばで見守りながら、きれいになったか確認するようにしている。一人でできない方は、職員が義歯と口の中をきれいに磨いている。義歯洗浄剤を使う日も決めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や声かけにより、トイレでの排泄や尿取りパットの交換をすることで、自立に向けた支援をしている。特に、昼間はトイレでの排泄を支援している。	利用者の排泄のリズムや習慣を把握して声かけしたり、本人のサインを見逃さないよう見守り、トイレ誘導をしている。排泄の失敗があってもさりげない対応を旨とし、自尊心を傷つけることがないように排泄介助している。日中は、トイレでの排泄を促し夜間はポータブルトイレを使用するなど排泄の状況に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から野菜を多く取り入れたメニューで食物繊維をたくさん摂取するように心掛けている。決まった時間に声かけをし、トイレに誘うようにしている。なかなか排泄がない方には、下剤を使うこともある。		

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	平日は、午前中クリニック受診をされる方がいらっしゃるの、午後から夕方までの間、毎日入浴できるように準備している。ご本人の希望を確認し、入浴を嫌がられる方には、タイミングを計って何度か言葉かけするようにしている。	一人ひとりの体調や希望に応じて週2～3程度入浴の機会を設けている。平日午前中は、主に車いすの方に入浴してもらっているが毎日でも入浴ができるよう準備している。また、浴室や脱衣場の室温の差がないよう保温にも配慮、入浴を嫌がる方にはチームプレイにてタイミングを計り声かけし入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて、昼寝をさせていただいたり、早く休んでいただいたり、ゆっくりとリビングで過ごされ、眠くなるまでお話しされたりして、落ち着いて眠れるように支援している。昼間はできるだけ起きて活動していただけるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや服薬管理票を作成し、いつも確認するようにしている。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態の変化がみられる時には、日誌や申し送りノートに記録やメモを取り、医療機関と連携が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの力が、発揮できるように色々な場面を作って、興味のありそうなことに声かけをしている。書道・華道・野菜作り・掃除など得意なことを見つけて挑戦していただけるようにしている。本人が希望されない時は無理強いしないようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	平日は午前中クリニック受診があるので、ドライブ感覚で治療に出かけられる。買い物や散歩なども本人のご希望に添って出かけている。外食やお墓参りなどは、家族の方をお願いしている。「息子さんに会いたい。家に帰ってみたい。」とよく言われる方がいらっしゃるの、毎週のように、外食に連れ出してくださる家族もいる。	リハビリのため外出される利用者は、市内中心部を車上から景色を楽しみ、ドライブ気分ですべて外出している。隣のスーパーには散歩がてら職員と連れ立って外出し買い物気分を味わっている。毎週家族と外出する利用者もあり、墓参りのため家族と外出する利用者もいる。また、定例の合同夏祭り、月1回開催される法人施設での演芸会や書道教室へ参加など積極的な外出を支援している。	

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができない方がほとんどだが、隣がお店なので、職員と共に買い物に行き、欲しい物を選んで本人で買えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が希望すれば、職員が電話してお話をしている。また、遠方の家族は、定期的に掛けてくださる方もいらっしゃる。手紙が書ける方は書いていただき、出せるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は、明るい雰囲気でもいつも季節感のある花を生けるようにしている。カウンター越しに台所の様子が見えるようになっているので、ご飯や料理の匂いや食材を刻む音、食器を洗う音など生活感を味わえるようになっている。リビングから見える外の景色はとてもきれいで、眺めが良い。</p>	<p>台所のカウンター越しに利用者の顔の表情や様子が伺えるよう見通しの良い家具配置が取られており、安全面にも配慮されている。リビングにはいつでも座れるソファやちょっと身体を横にしたい時にも休憩に配慮したベットがあり利用者や家族の意見が反映されている。また、和室には神棚や仏壇があり毎朝お参りする利用者を支援している。窓からは雄大な桜島、近隣の景色が見え眺望も望める。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを置いたり、廊下の隅に椅子を置いたりして、お一人で過ごしたり、気の合う方とお話をされたりして、くつろげるスペースを作っている。</p>		

鹿児島県 グループホームあおば

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の今までの生活していた環境に近づけるように、使い慣れた物や好みの物を持ち込んでいただくようお願いしている。慣れ親しんだ家具・家族の写真・化粧台・仏壇・時計など安心して過ごしていただけるように心掛けている。	部屋の前には、名札の下に本人の写真が掲示され、使い慣れたダンスや洋服掛け、ドレッサーなど、家族写真や思い思いの調度品が置かれている。転倒防止を考えすべり止め防止床材で対応した部屋もあり、部屋は明るく本人が気持ちよく過ごせるよう整理整頓され掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、手すりが付いていて、お一人でも座ったり、立ち上がったりできるようになっている。廊下が広いので安心して車椅子を使用している。更衣室も浴室も広く、車椅子でも浴室の中まで楽に行くことができるようになっている。		

**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームあおば

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームあおば

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない